

子どもたちの未来に 食の安心をつなぐ



私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する

その考え方を国消国産といいます。



JAグループサポーター
林修

日本は今、食料の約6割を輸入に頼っています。

もしも輸入が難しくなって、必要な食べものが足りなくなったら...農畜産物は、足りなくなったからといって、すぐに生産を拡大することはできません。だから、日ごろから「国消国産」を進めることが、とても大事。「国産」をもっと食べましょう。

国産を食べると、いいこといっぱい!

- 自給力アップで、いざというとき安心!
- 日本の農業を食べて応援できる!
- おいしくて安全・安心な食事を実現!
- 輸送で出るCO2を減らし、SDGsに貢献!

国消国産が日本の食の未来をつくります。

国消国産で、日本の「食」に安心を! 日本の「食」は、どうなる?

私たちの食べものは、自然の力を活かし、多くの時間をかけて作られています。足りなくなったからといって、すぐに作ることはできません。でも、日本の「食」は今、多くのリスクを抱えています。

食料の多くを輸入に頼る日本。輸入がもし止まったら、どうなる?

日本の「食」が直面している「5つのリスク」

世界や日本で自然災害が増加。農業が受けるダメージは、どうなる?

農家と農地が減っている。私たちの食べものは、どうなる?

2022年 約120万人
基幹的農業従事者数
約20年後 約30万人

※ 農水省による推計（「農業構造動態調査」より）

増え続ける世界の人口と食料需要。輸入に頼る日本は、どうなる?

80億人 2022年
97億人 2050年

※ 国連広報センターによる推計

高止まりする肥料・家畜のエサ・燃料。農家の経営は、どうなる?

高騰する生産資材
2020年を100とする

- エサ 139.5
- 肥料 134.1
- 燃料 129.7

※ 農水省令和6年5月農業物価統計調査

どれも大きなリスクですが、私たちにもできることがあります。

日々の食卓に「国産」を取り入れる。それが日本の農業を応援し、「食」を未来につないでいくことになります。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ